

(本当に) 指を交差し続けるサービスを生業にすることについて考えたこと

本日 2023年11月11日

ここ 岡山県玉野市宇野HIGASHIYAMA BUILDINGにて

私の新しい生業

「指を（本当に）交差させておきますね ※ただし有料となります」
が発表されることになりました。

概要は、祈りたいことがある依頼者のために

私が時給15€で人差し指と中指を交差し、その祈りを代行するというもの。

これだけだとちょっと意味がわからないかもしれないけれど

これは私がここ数年をかけてゆっくり考えてきたものなので

それを皆様にも共有したいと思います。

0. I'll keep my fingers crossed (語尾に 'for you' と続くことも多々。)

西洋文化においてよく使われる表現。

自分が幸運を祈りたい相手に向けて言う台詞。

この台詞と共に人差し指と中指を交差させるジェスチャーを向ける。

一般的に、指の交差を十字架に見立てていると言われており

「あなたの願いごとが叶うよう私も（神に？）祈っています」という合図。

広い状況で使われます。

例えば、

仕事の面接

大事な試験

大きなプロジェクトなどを控えている人に

週末の晴天を願って など

google翻訳にかけてみると日本語で「指を交差させておきます」になりました。

私はこれを超カジュアルな祈禱行為だと仮定します。

1. 指をクロスする習慣について

日本にはこの習慣がないのでピンとこないかもしれませんが、西洋文化圏の人間が「I'll keep my fingers crossed」と言って

(本当に)

指(=their fingers)を

交差(=crossed)させておく(= keep)わけでは決してありません。

交差された指は数秒後に絶対に解かれます。

長くても交差の維持は5秒といったところでしょうか。

私は、南米やヨーロッパで生活してきましたが、自分が深刻な状況にある時に他人から、この台詞と交差された指を向けられる度に微妙な気分になってきました。彼らの、あなたのことを慮っているよ！というドヤ顔が腑に落ちないのです。一応お礼は言うけれど全く納得がいきません。もちろんただの慣用句だと知っているけど、なんだか自分の切実な状況を軽んじられたように感じてしまいます。

例えば。

日本には御百度参りという民間信仰がありますよね。氏神神社に百回（もしくは100日連続で）お参りする風習です。何度も通うことによって、神様に信仰心を示し、願いを聞き入れてもらいやすくなるとされています。

病気や怪我の回復を祈って千羽鶴を折る習慣もあります。

どちらも他人のために自分の時間と労力をかけて行う儀式です。

そのくらいの気合いもない人間が指を一瞬交差しただけでドヤ顔を向ける資格はないのでは？とどうしても思ってしまうのです。

このように燻る気持ちを持って余っていたある日、子供の幼稚園の抽選結果待ちだと言った友人に私は不覚にも「I'll keep my fingers crossed for you!」と言ってしまいました。（たぶんドヤ顔もしていた）

嘘つきになりたくない私は帰宅後本当に指をしばらく交差してみますが、指が痺れ1時間しか維持できませんでした。それでも、その間はひたすら彼女の抽選結果が良いものであるよう祈りました。（人差し指と中指の2本を交差し、親指、薬指、小指はピースサインの時のように折り畳まれている、片手がこの行為のために取られているので他のことが何もできなかったし、集中するためにyoutubeやpodcastなどは消していた）

後日、彼女から良い知らせが届きました。

2. 祈りの有効性について

私の祈りが彼女の願いの成就につながった!!と思込むのはあまりにおこがましいでしょう。

では。

私が指を交差した1時間はただ指を痺れさせた愚行だったのか？

病気の家族のために行う御百度参りはただの有酸素運動なのか？

千羽鶴はただのカラフルな紙ゴミなのか？

七五三はただのコスプレ撮影会なのか？

お遍路はただのスタンプラリーなのか？

右手を45年間挙げ続けたインドのサドゥーはただのDMホームレスなのか？

そんなことはない。と、我々は信じたがっています。

切実な思いのためのそれらの行為を非科学的だと切り捨てることは気持ちがいいかもしれないけれど、それは愚かな思考停止です。

これまで人間は、時間・手間・お金等がかかることで祈りの効力を最大化してきました。

願いの大きさによって祈る時間や熱量は増します。

願いによっては当人ひとりがひっそりと祈っているだけでは足りないのかもしれない。

※いろんな宗教のいろんなレイヤーにおける祈りの話を混同していることは自覚していますが日本語の「祈り」という言葉の定義があやふやなのでその混同を自分に許容します。

2. 祈りの有効性について

私の祈りが彼女の願いの成就につながった!!と思ひ込むのはあまりにおこがましいでしょう。

では。

私が指を交差した1時間はただ指を痺れさせた愚行だったのか？

病気の家族のために行う御百度参りはただの有酸素運動なのか？

千羽鶴はただのカラフルな紙ゴミなのか？

七五三はただのコスプレ撮影会なのか？

お遍路はただのスタンプラリーなのか？

右手を45年間挙げ続けたインドのサドゥーはただのドMホームレスなのか？

そんなことはない。と、我々は信じたがっています。

切実な思いのためのそれらの行為を非科学的だと切り捨てることは気持ちがいいかもしれないけれど、それは愚かな思考停止です。

これまで人間は、時間・手間・お金等がかかることで祈りの効力を最大化してきました。

願いの大きさによって祈る時間や熱量は増します。

願いによっては当人ひとりがひっそりと祈っているだけでは足りないのかもしれない。

※いろんな宗教のいろんなレイヤーにおける祈りの話を混同していることは自覚していますが日本語の「祈り」という言葉の定義があやふやなのでその混同を自分に許容します。

4. 私（生計者）と代行業

ベルギーのブリュッセルに暮らす私は、言語、ステータス、気合い、やる気等の問題からいわゆるホワイトカラーの仕事には就いておらず代行業をしています。

具体的には、日本人駐在家庭を対象としたベビーシッター（育児代行）、掃除や料理の作り置き（家事代行）、ペットシッター（餌やり及び散歩代行）など自分にできることであればなんでもします。

時給は15€です。

私には特別な資格はなく、平均的な日本人としてのスキルしかないので、一生懸命仕事はするがプロの出来を期待されては困るという旨を依頼主にはしっかりと説明しています。

それでも私はちょっと売れっ子です。

私に向いているお仕事です。

5. 私（芸術家）と代行業

私が作品を作る時はいつも

- ・ 自分以外の人生をいかに生きることができるか
 - ・ いかに自分の中に他者性を取り入れアイデンティティをずらすことができるか
- という興味に基づき、制作プロセスにおいてさまざまな方法で他人に成り代わろうしてきました。

具体的には

他人の個人史を自分のものとして語る

違う名前を通名使用しその名前に紐づけられる文化背景に基づくキャラを演じる

ネット上にある旅の手記をインストラクションとして実演し追体験する

など

他人の物語（ソフトウェア）を私の身体（ハードウェア）にインストールし、ソフトの影響を受けて行為する。

つまりアーティストとしての仕事もある種の代行業であると言えます。

というようなことを考え、この度私は、誰かのために祈ることを生業のひとつにすることにしました。

当人の祈りでは足りない分を私が手伝う。

もしくは私が当人の祈りを代行する。

私の人生全てをかけることはできなくても、時給（15€。家政婦業と同じです）の発生している間は、神主が白い紙かざりのついた棒を振りかざすかわりに、唯一私にできる「指の交差を維持する」を「本当に」します。

生計者としての私が芸術家としての私を侵食してきているのかもしれませんが。

単に両者の間の境界線が壊れてきているのかもしれませんが。

とにかく自分の天職を模索した結果爆誕したのがこの生業なのです。

なお、祈祷の作法については一般的な御百度参りの作法に基づき、

- ・人目を避け
- ・清潔な身なりで
- ・声を発さず
- ・祈祷のことを第三者に話さず

行うこととします。

ご依頼は当会場にある申込用紙又は、私 Luciana Janaqui のWebサイトにあるPDFにご記入いただき以下のメールアドレスに送ってください。

lucianajanaqui@gmail.com

基本的に依頼内容は秘密厳守いたしますが、今回会場ではご依頼主の東山ビル様にご協力いただきその申込用紙を展示いたしております。

そちらもご覧ください。

2023年11月11日

祈祷代行サービス 指を（本当に）交差させておきますね

代表：Luciana Janaqui